ポスター発表 22
医薬品情報・IT 化・薬学教育・実務実習

2018 年 9 月 23 日（日） 16:00-17:30
ポスター会場 22 │ 大原学園金沢校 11F

P-22-07
調剤業務トータル支援 IT システムの開発（第 31 報）IT システムによる医薬品在庫管理の再検討

吉川 香奈美 [1]、南 陽介 [1]、関原 弘喜 [1]、片寄 勝邦 [2]、梶田 賢司 [2]、宗本 忠典 [2]、中村 信也 [3]、中室 克彦 [4]

1:すずらん薬局 [奈良県]、2:株式会社 クカメディカル、3:東京家政大学家政学部、4:摂南大学

【目的】当薬局グループは調剤エラーを未然に防ぐ調剤業務トータル支援 IT システム (以下 IT システム) を導入し、調剤ミス低減化、在庫管理をはじめとする業務の効率化を実践してきた。
前回の本学術大会で演者らは、IT システムによる医薬品在庫管理と発注システムを活用することにより、薬価改定時の在庫金額損失に対する低減化効果に貢献できることを示唆し報告した。
しかしながら、我々の開発したＩＴシステムの医薬品在庫管理機能と発注システムは、その開発より、すでに１０数年経過しており、より効果的な医薬品在庫管理機能を目指して、今回再検討を行うこととした。
【方法】内科診療所門前薬局（1 日平均処方箋枚数 64.5 枚、採用品目数約 1,400）においてＩＴシステムに保存されている在庫データ（2018（平成 30）年 1 月～3 月の 3 か月間）を用いて、1 日毎の推移を分析、検討する。また、汎用品目上位の 4 品目について医薬品在庫が及ぼす影響の指標として、出庫（調剤）数量、出庫（調剤）回数、出庫（調剤）金額の推移を調査した。
【結果】汎用品目の 4 品目であるムコスタ錠 100ｍｇ、デパス錠 0.5ｍｇ、リフレックス錠 15ｍｇ、スーグラ錠 50ｍｇについて期間内在庫数量、出庫（調剤）数量、入庫数量を抽出した。
回転率は、それぞれ、1.12、1.09、1.05、1.01 であった。また、いずれの品目も、期間開始時よりも期間終了間近において入庫回数は増加していたが入庫数量、在庫数量は減少していた。
【考察】選定した汎用品目において、安全在庫を設定していたがいずれの品目も、欠品などの問題は生じなかった。しかしながら、安全在庫が過剰に設定されている品目も見られ、安全在庫の設定には、医薬品個別の特徴や、処方傾向など、様々な因子による条件設定が円滑な在庫管理に必要不可欠であることが考えられた。これらの因子の在庫管理に及ぼす影響をさらに詳細に調査、解析し、適正在庫を達成するために必要な条件をＩＴシステム機能に反映することで、ＩＴシステムによる円滑な医薬品在庫管理を行うことが可能になると推察される。
【キーワード】IT システム、医薬品在庫管理、安全在庫、適正在庫、発注システム

ポスター発表

▲ TOP